

滋賀大学図書館所蔵 レオン・ワルラスの書簡 (1898年7月19日付)

御崎加代子

Kayoko Misaki

滋賀大学 経済学部 / 教授

はじめに

滋賀大学図書館は、2021年11月に、レオン・ワルラス (Léon Walras, 1834-1910) の自筆書簡を2通購入した。本稿の目的は、そのうちの1通 (1898年7月19日付) の内容と背景を示すことである。

ワルラスは言うまでもなく、一般均衡理論の設立によってローザンヌ学派の創始者となり、現代経済学の基礎を築いたフランスの経済学者である。現在、ワルラスの重要書簡は、ワルラス研究者ウィリアム・ジャッフェが編纂した書簡集 (Walras 1965) 全3巻に収められており、各書簡の内容や背景を詳細に知ることができる¹⁾。ジャッフェは、書簡集の編纂にあたって、ワルラスの経済学形成過程に直接かかわらないと判断したものは掲載しなかった。滋賀大学が所蔵する2通の書簡はいずれも、この書簡集に収められていない。しかしながら、本稿でとりあげる1898年7月19日の書簡は、ワルラス経済学の普及過程にかかわる興味深い内容を伝えている。以下、その内容について示す。

¹⁾ ワルラスは、発送するすべての書簡の手書きの写しを残しており、ジャッフェの書簡集のテキストは、そのワルラス自身による写しを基にしている。

(書簡の原文)

La Bugnonne, Mont-de-Pully sur Lausanne

19 juillet 1898

Cher Monsieur,

Je vous ai fait mon remerciement pour avoir accueilli mes deux articles ; mais je vous en dois un spécial pour la forme vraiment distinguée, aimable et empressée dans laquelle vous avez fait cette publication.

Je vous l'adresse de tous cœur ; et, sans insister plus qu'il ne faut, je souhaite qu'il se présente quelque occasion de me montrer, comme je le suis.

Votre très obligé et tout dévoué.

Léon Walras

(書簡の日本語訳)

ラ・ブニョンス、モン・ド・ピュイ・

シュール・ローザンスにて

1898年7月19日

拝啓

私の二つの論文を掲載して下さったことに感謝していますが、この出版を実現させた、本当に卓越した、親切で熱心な姿勢に、私は特別の感謝を捧げます。

心よりその謝意をお伝えします。そして、必要以上に主張することなく、ありのままの私をお見せることができる、何らかの機会があることを願っています。

敬具

レオン・ワルラス

解説

この手紙の発信地であるラ・ブニョンス (La Bugnonne) は、スイスのローザンス近郊にあったワルラスの夏の別荘の名である。宛名は便箋に記載されていないが、文面から判断してこれは、『ガゼット・ド・ローザンス』 (Gazette de Lausanne) 紙の関係者に宛てたものであるに違いない。以下、その根拠を示す。

文面にある「二つの論文」とは、ワルラスの著作目録²⁾から判断して、「フランスの政策」(Politique française) と「自由な思想家の祈り」(La prière du libre penseur) であるに違いない。それぞれ『ガゼット・ド・ローザンス』紙の1898年7月14日号と7月18日号に掲載された。すなわちこの手紙が書かれた日の直前の掲載である。

実は1898年は、ワルラスの代表作『応用経済学研究』³⁾が出版された年であり、これら二つの論文は、この著作の最後の部「経済社会原理の略説」(Esquisse d'une doctrine économique et sociale) に収められている。ワルラスの「応用経済学」は、自由競争の原理が単純に適応できない分野において、いかに効率性を実現してゆくかを考察する分野である。ワルラスが一般均衡理論を論じた「純粋経済学」が理念的な自由競争を論じているのに対し、「応用経済学」は現実の市場を問題としており、ワルラスにとって、自分が「自由放任論者」でないことを証明するための重要な分野であった。残念ながらワルラスは、健康上の理由で、「応用経済学」を「純粋経済学」のように体系的に完成することをあきらめ、既刊の論文を集めた『応用経済学研究』を公刊したのである。ワルラスの応用経済学は、彼の「社会経済学」(正義の追求を目的とし、土地国有化や税制撤廃を提案)と同様、ローザンスにおけるワルラス後継者パレートや、ワ

2) Walras(2005), p.79.

3) Walras[1898](1992).

ルラスの純粋経済学を絶賛したシュンペーターから否定的な評価を受け、20世紀の経済学者たちから無視された。しかしながらワルラスにとって、彼の経済学体系は純粋経済学、応用経済学、社会経済学の3つがそろって、初めて完結するものだったのである。

『応用経済学研究』は、I. 貨幣、II. 独占、III. 農業、工業、商業、IV. 信用、V. 銀行、VI. 金融市場、VII. 経済社会原理の略説という7つの部から構成される。第VII部はさらに以下のような6つの節に分かれ、ワルラスの経済学体系や方法論が示されている。

- I. 純粋科学、道徳科学、応用科学と実践との区別。
- II. 人間と社会の純粋科学。
- III. 社会的富の純粋科学。
- IV. 社会的富の分配についての道徳的理論。
国家による土地の買い上げ。
- V. 社会的富の生産についての応用理論。貨幣価値の変動の調整。
- VI. フランスの政策。自由な思想家の祈り⁴⁾。

下線で示した第VI節こそが、本書簡で言及されている「二つの論文」である。

実はワルラスは「自伝」において、これらの二つの論文が『ガゼット・ド・ローザンヌ』紙に掲載されたことに言及している。

「私は『経済社会原理の略説』を、穏健なものであれ進歩的なものであれ、ともかくフランスの選集に掲載してもらおうとしたのだが、駄目だった。しかし『ガゼット・ド・ローザンヌ』は、私に関して常にリベラルで、その最後の最もすさまじいパラグラフを恐れることなく掲載した—『フランスの政策—自由な思想家の祈り』、1898年7月14日と18日の

号。」(Walras, [1893-1909] 2001, p.20. 御崎訳 p.161. 下線部は御崎による)

当時ワルラスは、故国フランスで自らの経済学を普及させようとしていたが、厚い壁にぶちあたっていた⁵⁾。「経済社会原理の略説」は、ワルラスの経済学の方法と全体像をわかりやすく説明した論考なので、自分に対する誤解を解くためにも、これをぜひフランスの刊行物に載せたいとワルラスは考えていたのであるが、受け入れてくれる出版社はなかったのである。それに対してスイスの『ガゼット・ド・ローザンヌ』紙は、ここでワルラスが「もっともすさまじいパラグラフ」と表現した最終節「フランスの政策—自由な思想家の祈り」を掲載してくれた。その『ガゼット』紙への感謝の手紙が、本書簡なのである。

ワルラスが「フランスの政策—自由な思想家の祈り」の内容を「すさまじい (horifique) 」と表現したのは、おそらくそれが現体制への批判を含んでいるからであろう。その点についてこれ以上詳しく論じることは、本稿の目的ではないので、その例として、一部を抜粋するのにとどめておく。

「無政府主義者、社会主義者、経済学者たちが、国家について、その無能さについて、その腐敗について、その無力さについて、軽蔑しつつ語るとき、それが現在の国家に関することなのであれば、我々は彼らに同意するが、それが将来の国家に関することなのであれば、もはや同意しない。歴史は、国家が有能で、正直で、優れた存在であったことは一度もないことを証明している、と彼らは述べる。もしそうだとしたら、本質的に進歩的な事実に関して、帰納法によって、将来に向けて何かを主張することはできないだろう。道徳的・政治的秩序においても、自然的・技術的秩序と同様に、経験主義は、

4) Walras [1898] (1992), pp. 433-441.

5) ワルラスの純粋経済学(一般均衡理論)は、当時スイスを拠点として国際的に評価されつつあったが、ワルラスの故国フランスだけは例外だった。ワルラスの土地国有化をはじめ

とする社会主義的な思想、純粋経済学における数学の使用などが原因で、ワルラスの経済学は、フランスの正統派経済学者たちから拒絶されていたのである。

合理的な純粋・応用科学と合理的な実践にますます道を譲ることができるし、またそうしなければならないのである。」

(Walras [1898]1992,p.434)

参考文献

1. Walras, Auguste et Léon Walras, et al. 1987-2005. *Auguste et Léon Walras. Œuvres économiques complètes*. 14 vols. Edités par Pierre Dockès et al. Paris: Economica.
2. Walras, Léon. [1893-1909] 2001. Notice Autobiographique. In Walras and Walras. (1987-2005), vol. V : *L'économie politique et la justice*, 11-27. Paris: Economica. (御崎加代子訳「付録 ワルラス自伝資料翻訳」『ワルラスの経済思想—一般均衡理論の社会ヴィジョン』名古屋大学出版会 1998年)
3. Walras, Léon. [1898] 1992. *Etudes d'économie politique appliquée : théorie de la production de la richesse sociale*. In Walras et Walras (1987-2005), vol. X. Paris: Economica.
4. Walras, Léon. 1965. *Correspondence of Léon Walras and Related Papers*. 3 vols. Edited by William Jaffé. Amsterdam: North-Holland Publishing Company.
5. Walras, L. 2005. Œuvres d'Auguste et de Léon Walras. In Walras et Walras (1987-2005), vol. XIV: *Auguste Walras Léon Walras, Tables et Index*, 13-96. Paris: Economica.

La Beignonne, Monto. d. Chilly, sur L'Autanne
19 juillet - 1894.

Cher Monsieur,

Je vous en fais mon remerciement pour
avoir accueilli mes deux articles; mais je
vous en dois un spécial pour la forme vrai-
ment distinguée, aimable et empreinte dans
laquelle vous avez fait cette publication.

Je vous l'adresse de tout coeur; et, sans
insister plus qu'il ne faut, j'espère qu'il
se présente quelque occasion de me connaître,
comme j'espère.

Notre très oblige et tout dévoué
Léon Walras

Léon Walras's letter (July 19, 1898) preserved in Shiga University

Kayoko Misaki

The purpose of this paper is to present the content and background of Léon Walras's letter dated July 19, 1898, which is preserved at Shiga University. This letter, which is not included in *Correspondence of Léon Walras* edited by Jaffé (1965), conveys interesting aspect of the diffusion process of Walras's economics. Although no address is given, the letter is presumably addressed to the editorial board of the *Gazette de Lausanne*. In this letter, Walras expresses deep gratitude for the publication of his two articles, "Politique française" and "La prière du libre penseur" in the *Gazette*. They constitute the last paragraph of Walras's book, *Etudes d'économie politique appliquée* (1898). In his autobiographical note, Walras describes it as "the most horrific paragraph" probably because it contains his criticism of the current government.